

THEO インカム・ファンド (世界の債券中心)

運用報告書 (全体版)

第2期 (決算日 2019年1月31日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、「THEO インカム・ファンド (世界の債券中心)」は、2019年1月31日に第2期の決算を行いました。
ここに作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/資産複合	
信託期間	原則として、無期限です。(設定日:平成29年3月1日)	
運用方針	「THEO インカム・ファンド (世界の債券中心)」は、マザーファンド受益証券へ投資を行います。以下はマザーファンドである「THEO インカム・マザーファンド (世界の債券中心)」の運用方針です。 ①主として世界の投資信託証券 (ETF) に投資することにより、リスクの低減を図りつつ、世界中の金利を享受することを旨とします。 ②組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行いません。 ③資金動向、市況動向、残存信託期間等によっては、上記のような運用ができない場合もあります。	
主要運用対象	ベビーファンド	THEO インカム・マザーファンド (世界の債券中心) 受益証券を主要な投資対象とします。
	マザーファンド	世界の株式市場に上場されている投資信託証券 (ETF) を主要な投資対象とします。
組入制限	ベビーファンド	①投資信託証券 (ETF) への実質投資割合には制限を設けません。 ②外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	①投資信託証券 (ETF) への投資割合には制限を設けません。 ②外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎年1月31日 (休業日の場合は翌営業日) に決算を行い、収益分配方針に基づき収益分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

<照会先>

電話番号: 03-6629-7090

(受付時間: 委託会社の営業日の9:30~17:00)

ホームページ: <https://www.money-design.com/>

 お金のデザイン

東京都港区赤坂1丁目9番13号

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	騰落率		投資信託 組入比率	純資産額
		税金 分	込配 み金		
(設定日)	円	円	%	%	百万円
2017年3月1日	10,000	—	—	—	1
1期(2018年1月31日)	9,773	0	△2.3	100.0	23
2期(2019年1月31日)	9,931	0	1.6	100.0	79

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率		投資信託 組入比率	託券率
		騰	落		
(期首)	円	%	%		%
2018年1月31日	9,773	—	—	100.0	100.0
2月末	9,478	△3.0		100.0	100.0
3月末	9,481	△3.0		100.0	100.0
4月末	9,615	△1.6		100.1	100.1
5月末	9,634	△1.4		99.6	99.6
6月末	9,773	0.0		97.5	97.5
7月末	9,819	0.5		94.6	94.6
8月末	9,872	1.0		110.4	110.4
9月末	10,031	2.6		100.1	100.1
10月末	9,866	1.0		101.2	101.2
11月末	9,933	1.6		76.1	76.1
12月末	9,910	1.4		100.1	100.1
(期末)					
2019年1月31日	9,931	1.6		100.0	100.0

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

（2018年2月1日～2019年1月31日）

期中の基準価額等の推移



期 首：9,773円

期 末：9,931円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率： 1.6%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首（2018年1月31日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、1.6%上昇しました。

当ファンドは、「THEO インカム・マザーファンド（世界の債券中心）」受益証券を組み入れることにより実質的な運用を当該マザーファンドにおいて行っております。

当期においては、アルゼンチンとトルコの危機の影響を受けた新興国債券と秋期に広がったリスクオフ環境に影響を受けたハイイールド債券を除く大部分のETFがプラスのリターンとなりました。これは、質への逃避によるプラスの効果が米国金利上昇の悪影響を上回ったことによります。

当ファンドは、為替ヘッジを行っていませんので、為替相場の変動が基準価額に反映されます。為替相場は、円安米ドル高となったため、当ファンドの基準価額に若干プラスに寄与しました。

投資環境

世界の債券市場の指数であるブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合指数（米ドルベース）は、1.3%の下落となりました。一方、米ドル円レートは0.2%の円安となりました。

米国の金利上昇は2018年2月と夏場から10月にかけて米国債にとってマイナスの影響を及ぼしました。

しかし、この金利上昇などによって株式が広範囲にわたって売られ、質への逃避が引き起こされたため、米回国債は当期全体ではプラスのリターンを記録し、特に米国中期国債は保有銘柄の中で当期最も大きく上昇しました。

夏場におけるアルゼンチンとトルコの危機によって影響を受けた新興国債は保有銘柄の中で当期最も悪いパフォーマンスでしたが2018年9月以降は比較的良好に推移しました。

ハイイールド債は当期前半最も好調なクラスでしたが、2018年10月の株式市場下落により信用スプレッドがここ数年で最も広いレベルにまで拡大しました。これは2019年1月の強い反発によりかなり改善し、当期全体では数銘柄のハイイールド債が多少のマイナスに留まり、2019年に組み入れた短期ハイイールド債については堅調でした。

当ファンドのポートフォリオ

当ファンドは、「THEO インカム・マザーファンド（世界の債券中心）」受益証券への投資を通じ、主として世界のETFに投資することで、実質的に世界の債券等へ分散投資を行います。

当ファンドの目的は、世界各国の債券等の金利水準に着目し、安定した収益を確保することで、投資信託財産を着実に成長させることです。これに向けて、定期的に評価基準にもとづいてETFを選定し、検証を重ねたアルゴリズムにより配分を変更します。当期もそのように運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は設定しておりません。

分配金

当期の分配金は、長期的な投資信託財産の成長を追求する観点から無分配とさせていただきます。また、収益分配に充てなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項 目	第 2 期
	2018年2月1日～ 2019年1月31日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	253

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

引き続き、「THEO インカム・マザーファンド（世界の債券中心）」受益証券への投資を通じ、下落リスクを抑えつつ将来のイールドを最大化するアルゴリズムを用いて主として世界のETFに投資することで、実質的に世界中の金利を享受することを目指します。定期的に評価基準に基づいてETFを選定し、組入比率を調整して参ります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2018年 2 月 1 日～2019年 1 月31日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	42	0.432	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(34)	(0.351)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(5)	(0.054)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(3)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	16	0.162	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(16)	(0.162)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.004	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(0)	(0.004)	
(d) そ の 他 費 用	12	0.125	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(11)	(0.111)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(1)	(0.014)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	70	0.723	
期中の平均基準価額は、9,765円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2018年2月1日～2019年1月31日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘	柄	設 定		解 約	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
THEO インカム・マザーファンド（世界の債券中心）		60,611	59,816	4,925	4,900

○利害関係人との取引状況等

(2018年2月1日～2019年1月31日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況 (2018年2月1日～2019年1月31日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2018年2月1日～2019年1月31日)

当期首残高 (元本)	当期設定 元本	当期解約 元本	当期末残高 (元本)	取 引 理 由
百万円 1	百万円 —	百万円 1	百万円 —	投資信託の当初設定時に取得したものを全売却

○組入資産の明細

(2019年1月31日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
THEO インカム・マザーファンド（世界の債券中心）	千口 23,555	千口 79,241	千円 79,502

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2019年1月31日現在)

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
THEO インカム・マザーファンド（世界の債券中心）	千円 79,502	% 99.4
コール・ローン等、その他	491	0.6
投資信託財産総額	79,993	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) THEO インカム・マザーファンド（世界の債券中心）において、当期末における外貨建純資産（283,378千円）の投資信託財産総額（300,113千円）に対する比率は94.4%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=108.96円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2019年1月31日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	79,993,800
THEO インカム・マザーファンド（世界の債券中心）（評価額）	79,502,513
未収入金	491,287
(B) 負債	482,991
未払解約金	311,287
未払信託報酬	137,399
その他未払費用	34,305
(C) 純資産総額（A－B）	79,510,809
元本	80,062,457
次期繰越損益金	△ 551,648
(D) 受益権総口数	80,062,457口
1万口当たり基準価額（C／D）	9,931円

（注）当ファンドの期首元本額は23,669,348円、期中追加設定元本額は62,308,760円、期中一部解約元本額は5,915,651円です。

（注）1口当たり純資産額は0.9931円です。

（注）2019年1月31日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は551,648円です。

○損益の状況（2018年2月1日～2019年1月31日）

項 目	当 期
	円
(A) 有価証券売買損益	1,384,582
売買益	1,507,606
売買損	△ 123,024
(B) 信託報酬等	△ 266,400
(C) 当期損益金（A＋B）	1,118,182
(D) 前期繰越損益金	△ 722,939
(E) 追加信託差損益金	△ 946,891
（配当等相当額）	（ 532,156）
（売買損益相当額）	（△1,479,047）
(F) 計（C＋D＋E）	△ 551,648
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金（F＋G）	△ 551,648
追加信託差損益金	△ 946,891
（配当等相当額）	（ 674,308）
（売買損益相当額）	（△1,621,199）
分配準備積立金	1,353,472
繰越損益金	△ 958,229

（注）損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

（注）損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

（注）損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

（注）計算期間末における費用控除後の配当等収益（1,205,184円）、費用控除後の有価証券等損益額（0円）、信託約款に規定する収益調整金（674,308円）および分配準備積立金（148,288円）より分配対象収益は2,027,780円（1万口当たり253円）ですが、当期に分配した金額はありません。

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	0円
----------------	----

○お知らせ

該当事項はございません。

THEO インカム・マザーファンド （世界の債券中心）

運用報告書

第2期（決算日 2019年1月31日）
（2018年2月1日～2019年1月31日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	原則として、無期限です。（設定日：平成29年3月1日）
運用方針	①主として世界の投資信託証券（ETF）に投資することにより、リスクの低減を図りつつ、世界中の金利を享受することを目指します。 ②組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。 ③資金動向、市況動向、残存信託期間等によっては、上記のような運用ができない場合もあります。
主要運用対象	世界の株式市場に上場されている投資信託証券（ETF）を主要な投資対象とします。
組入制限	①投資信託証券（ETF）への投資割合には制限を設けません。 ②外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

 お金のデザイン

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		投 資 信 託 純 資 産 額	組 入 比 率
		期 騰 落	中 率		
(設定日)	円		%		%
2017年3月1日	10,000		—		—
1期(2018年1月31日)	9,820		△1.8		100.0
2期(2019年1月31日)	10,033		2.2		100.0

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 純 資 産 額	組 入 比 率
		騰 落	率		
(期 首)	円		%		%
2018年1月31日	9,820		—		100.0
2月末	9,528		△3.0		99.9
3月末	9,535		△2.9		100.0
4月末	9,674		△1.5		100.0
5月末	9,698		△1.2		99.5
6月末	9,841		0.2		97.4
7月末	9,892		0.7		94.6
8月末	9,951		1.3		110.4
9月末	10,115		3.0		100.0
10月末	9,954		1.4		101.1
11月末	10,026		2.1		75.9
12月末	10,007		1.9		100.0
(期 末)					
2019年1月31日	10,033		2.2		100.0

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2018年2月1日～2019年1月31日)

期中の基準価額等の推移

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、2.2%上昇しました。

当期においては、アルゼンチンとトルコの危機の影響を受けた新興国債券と秋期に広がったリスクオフ環境に影響を受けたハイイールド債券を除く大部分のETFがプラスのリターンとなりました。これは、質への逃避によるプラスの効果が米国金利上昇の悪影響を上回ったことによります。

当ファンドは、為替ヘッジを行っていませんので、為替相場の変動が基準価額に反映されます。為替相場は、円安米ドル高となったため、当ファンドの基準価額に若干プラスに寄与しました。

【基準価額の推移】



投資環境

世界の債券市場の指数であるブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合指数（米ドルベース）は、1.3%の下落となりました。一方、米ドル円レートは0.2%の円安となりました。

米国の金利上昇は2018年2月と夏場から10月にかけて米国債にとってマイナスの影響を及ぼしました。

しかし、この金利上昇などによって株式が広範囲にわたって売られ、質への逃避が引き起こされたため、米国国債は当期全体ではプラスのリターンを記録し、特に米国中期国債は保有銘柄の中で当期最も大きく上昇しました。

夏場におけるアルゼンチンとトルコの危機によって影響を受けた新興国債は保有銘柄の中で当期最も悪いパフォーマンスでしたが2018年9月以降は比較的良好に推移しました。

ハイイールド債は当期前半最も好調なクラスでしたが、2018年10月の株式市場下落により信用スプレッドがここ数年で最も広いレベルにまで拡大しました。これは2019年1月の強い反発によりかなり改善し、当期全体では数銘柄のハイイールド債が多少のマイナスに留まり、2019年に組み入れた短期ハイイールド債については堅調でした。

当ファンドのポートフォリオ

当ファンドは、主として世界のETFに投資することで、実質的に世界の債券等へ分散投資を行います。

当ファンドの目的は、世界各国の債券等の金利水準に着目し、安定した収益を確保することで、投資信託財産を着実に成長させることです。これに向けて、定期的に評価基準にもとづいてETFを選定し、検証を重ねたアルゴリズムにより配分を変更します。当期もそのように運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は設定していません。

○今後の運用方針

引き続き、下落リスクを抑えつつ将来のイーロードを最大化するアルゴリズムを用いて主として世界のETFに投資することで、実質的に世界中の金利を享受することを目指します。定期的に評価基準に基づいてETFを選定し、組入比率を調整して参ります。

○1万口当たりの費用明細

(2018年2月1日～2019年1月31日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (投 資 信 託 証 券)	円 19 (19)	% 0.193 (0.193)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (投 資 信 託 証 券)	0 (0)	0.005 (0.005)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (そ の 他)	2 (2)	0.016 (0.016)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	21	0.214	
期中の平均基準価額は、9,836円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2018年2月1日～2019年1月31日)

投資信託証券

銘	柄	買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外 国	アメリカ	口	千米ドル	口	千米ドル
	ISHARES IBOXX INVESTMENT GRA	13,114	1,486	7,931	894
	ISHARES 20+ YEAR TREASURY BO	6,146	721	4,288	507
	ISHARES 7-10 YEAR TREASURY B	13,771	1,400	10,419	1,066
	ISHARES JP MORGAN USD EMERGI	5,627	595	4,546	476
	ISHARES IBOXX USD HIGH YIELD	6,220	525	5,745	478
	ISHARES MBS ETF	9,357	969	4,685	484
	ISHARES SHORT-TERM CORPORATE	5,022	259	47	2
	SPDR BLACKSTONE/GSO SEN LOAN	3,893	181	2,470	115
	SPDR BBG BARC ST HIGH YIELD	9,796	259	146	3
	VANECK VECTORS INTERNATIONAL	517	12	650	16
	VANGUARD MORTGAGE-BACKED SEC	7,337	373	7,611	389
小 計	80,800	6,784	48,538	4,434	

(注) 金額は受け渡し代金。

○利害関係人との取引状況等

(2018年2月1日～2019年1月31日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況 (2018年2月1日～2019年1月31日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2019年1月31日現在)

外国投資信託証券

銘柄	期首(前期末)		当 期 末			
	口 数	口 数	評 価 額		比 率	
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	口	口	千米ドル	千円	%	
ISHARES IBOX INVESTMENT GRA	444	5,627	651	71,005	25.1	
ISHARES 20+ YEAR TREASURY BO	296	2,154	260	28,382	10.0	
ISHARES 7-10 YEAR TREASURY B	368	3,720	388	42,316	14.9	
ISHARES JP MORGAN USD EMERGI	24	1,105	119	13,010	4.6	
ISHARES IBOX USD HIGH YIELD	244	719	61	6,651	2.3	
ISHARES MBS ETF	270	4,942	519	56,653	20.0	
ISHARES SHORT-TERM CORPORATE	—	4,975	259	28,280	10.0	
SPDR BLACKSTONE/GSO SEN LOAN	317	1,740	79	8,709	3.1	
SPDR BBG BARC ST HIGH YIELD	—	9,650	260	28,368	10.0	
VANECK VECTORS INTERNATIONAL	133	—	—	—	—	
VANGUARD MORTGAGE-BACKED SEC	274	—	—	—	—	
合 計	口 数 ・ 金 額	2,370	34,632	2,600	283,377	
	銘柄 数 < 比 率 >	9	9	—	<100.0%>	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

○投資信託財産の構成

(2019年1月31日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 283,377	% 94.4
コール・ローン等、その他	16,736	5.6
投資信託財産総額	300,113	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) 当期末における外貨建純資産（283,378千円）の投資信託財産総額（300,113千円）に対する比率は94.4%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=108.96円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2019年1月31日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	300,113,188
コール・ローン等	16,735,506
投資信託受益証券(評価額)	283,377,682
(B) 負債	16,756,780
未払解約金	16,756,780
(C) 純資産総額(A-B)	283,356,408
元本	282,412,644
次期繰越損益金	943,764
(D) 受益権総口数	282,412,644口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,033円

(注) 当ファンドの期首元本額は23,555,210円、期中追加設定元本額は1,750,374,249円、期中一部解約元本額は1,491,516,815円です。

(注) 2019年1月31日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・THEO インカム・A I ファンド（世界の債券中心） 203,171,626円
 ・THEO インカム・ファンド（世界の債券中心） 79,241,018円

(注) 1口当たり純資産額は1.0033円です。

○損益の状況（2018年2月1日～2019年1月31日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	4,214,140
受取配当金	4,213,036
受取利息	1,104
(B) 有価証券売買損益	△ 2,895,600
売買益	10,944,107
売買損	△13,839,707
(C) 保管費用等	△ 21,089
(D) 当期損益金(A+B+C)	1,297,451
(E) 前期繰越損益金	△ 423,743
(F) 追加信託差損益金	74,125
(G) 解約差損益金	△ 4,069
(H) 計(D+E+F+G)	943,764
次期繰越損益金(H)	943,764

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

該当事項はございません。